

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第22号

令和6年10月12日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

個人懇談会開始 2 日目

～ご家庭と学校の連携～

校長 森 勝義

先週10月5日から4週にわたり、個人懇談会が始まりました。お子様の日本語学校や現地校での様子やご家庭での様子等を共通理解し、担任と保護者が連携し、健やかな成長を同一歩調で進めるための懇談会です。予定時間の少し前には準備の程、よろしくお願ひします。

さて、今週は放課後、カフェテリアにて第1回漢字検定があります。小学2年生から高校生まで総勢43名の児童生徒が受検します。そして再来週10月26日は授業参観を予定しています。子どもたちの頑張る姿や保育・授業の様子をぜひともご覧いただき、学校と家庭が連携・協力しながらお子様のご成長を図れればありがたいと思います。

子どもたちの作品集

5年2組「きいて、きいて、きいてみよう」 「父と仕事」について 依田仁之祐

父はアメリカに来て、5年になります。父の会社では、自動車の部品をつくっています。つくり方を簡単に説明してもらいました。鉄クズを1500度で溶かして、つくりたい型に入れ、冷やして固めるそうです。溶かした鉄は真っ赤になります。一個つくるのに5時間かかり、一日におよそ5万個をつくるそうです。

父の仕事は、会社のお客さんが困らないように、何が必要か、必要な部品がそろっているか確認して、届けられるように準備をして、指示を出すことだそうです。次に、父につらいことがあっても仕事を続けられる理由を聞きました。父の会社がつくる部品がなければ、自動車は止まらないので、責任のある仕事だと話してくれました。そしてぼくたち家族がきちんとご飯を食べて、生活するために頑張っているからだそうです。ぼくは父にインタビューをして、父の会社で車を止めるために必要な部品をつくっていると聞き、驚きました。そして、父がどんな仕事をしているかを知ることができて、おもしろかったです。1500度はとても熱くて危険なので、気をつけてほしいと思いました。

「祖父」にきいてみました

入江 友

ぼくの祖父は、今でも仕事をしていて、よくぼくと弟におもちゃやゲームを買ってくれます。ぼくは7つの質問をしました。1つ目は、祖父はどんな仕事をしているのかということを知りました。祖父は、「屋根やかべをはる建ちく板金の仕事をしている。」と言いました。2つ目の質問は、なんでその仕事をしようと思ったのかということです。「祖父の兄

が死んでしまったため、それをついで仕事をしている。」と言いました。3つ目の質問は、その仕事のことをどう思っているのかということです。祖父は、「夏は暑いし、冬は寒いしので大変な仕事。」と言いました。4つ目の質問は、何歳からやっているのかということです。20歳からやっているそうです。5つ目の質問は、何人の人とやっているのかということです。祖父は、「応えんの人4人といっしょにやっている。」と言いました。6つ目の質問は、休みは何日あるのかということです。祖父は、「週に一回」と言いました。7つ目の質問は、あと何年仕事をやるのかということです。祖父は、「あと2, 3年。」と言いました。祖父は老人だけど、仕事をがんばっていて、すごいと思いました。インタビューで祖父のことを知る事ができてよかったです。

「ある晴れた夏の朝」

中学一年一組 青木千夏

日本とアメリカで太平洋戦争が始まった。そして、日本に二つの原爆が落とされたことにより、この三年九か月の戦争は終わりを告げた。しかし本当に原爆が落とされていなければ、戦争は終わらなかったのだろうか。

この物語の中で、主人公のメイ、そして彼女と同じアメリカの高校生たちが、原爆の肯定派と否定派に分かれてディスカッションを行う。その中で、彼らは複雑にあ絡み合った歴史について学んでいく。

私は小学校三年生のときに、広島の実験場跡を訪れた。あの時の記憶をとて鮮明に覚えている。黒焦げになった人々。泣き叫ぶ母親。人の座っていたところに残る影。そこで、私は涙さえも出なかった。私は完全な否定派だ。この本を手に取り、目次を開け、まずそう思った。なぜ原爆を肯定することができるのか。

「原爆は、卑怯な真珠湾攻撃に対する正しいリベンジだった。」

これが肯定派の意見だ。アメリカに戦争を仕掛けたのは日本だ。アメリカは不正義に対して、正義として立ち向かったと主張している。では、なぜドイツではなかったのか。

「原爆投下の根本にあったものは、人種差別ではなかったか。」

原爆の開発や実験場所はすべて有色人種の住む場所で行われていた。つまり、アメリカはドイツが白人国家だったから原爆を落とさなかったのではないか。原爆というのは、醜い人種差別の行き着くところなのだ。これが、高校生の出した結論だ。本当の敵は外側ではなく内側にあるものなのだ。

私はどんなことがあっても、原爆、そして戦争に反対だ。人種差別や戦争をなくすためには、まず相手のことをまなばなければならない。本の中で引用されている、あるパレスチナ人の言葉を一部紹介したい。

「憎しみと怨恨のチェーン、暴力と暴力の連鎖を断ち切るためには、互いに相手を許すしかない。相手を許し、愛さなくてはならない。」

「夢をかなえるゾウ」

中学一年二組 筒井 尊太

私は『夢をかなえるゾウ』という本を読みました。この本を選んだ理由は、夢を見つけることに悩んでいたからです。そして、この本が夢を見つける何かのきっかけになると思いました。

主人公である青年が人生を変えようと思っている時に、インドの神様であるガネーシャが登場し、一日一個ずつ課題をだしていくというお話になっています。その課題とは、靴磨きやお参りに行くといった小さなものから、人の成功をサポートしたり、大切な人を喜ばせるというようなものなどがあります。

私が一番心に残っている課題は、「人が欲しがっているものを先取りする。」というものです。それは、人々がその時に欲しがっているものを見抜き、予想して提供し、満足させるという課題だからです。例えば日常生活で、友達が欲しがっている誕生日プレゼントを予想して、用意するするということです。そうすることで、その人との関係が一層深まるでしょう。この課題は人との信頼関係を築きやすくするものです。また、ビジネスにおいては、流行りそうなものを予想して、売りに出すことを可能にするため、成功のきっかけになると思います。したがって、この課題を繰り返し挑戦することで、先見の目を養うことができるのです。

作者が伝えたいメッセージは、夢をかなえたいなら自分が変わらなければいけないということだと考えます。私はこの考えに賛成です。この本を通じて、待っていても夢がかなうわけではない、ということを考えさせられたからです。次の課題は何かと、この本を読みながら、とてもワクワクした気持ちになりました。今後は、ガーシャが出した課題に、一つ一つ挑戦しようと思います。そうすれば、いつかきっと自分の夢を見つけることができると信じています。

読書の秋！ おすすめの本

6年2組 西田菜々子

私のおすすめの本は「時間割男子」です。この本は、シリーズ物語で、主人公は花丸円（はなまるまどか）という女の子です。円は勉強が苦手だったので、学校の帰り道に教科書を全部投げ捨てました。次の週、円の教科書が4人の男子になってやってきました。その日から円は勉強をがんばると決めました。円はいろいろな事件が起こると、解決していきます。私は小説を読むのが苦手ですが、絵が多いのと、物語の展開が早いため、1巻を読んだら止まらなくなりました。勉強が苦手な人や、小説が苦手な人には、おすすめの本です。ぜひ読んでみてください。

読書の秋！ おすすめの本

6年2組 福本映斗

ぼくは、「グレッグのダメ日記」をおすすめします。この本はグレッグという主人公の体験したことなどが書いてあり、少しおちょこちよいなところが面白い本です。そして本を読むことが苦手なぼくでも、本当にグレッグがという男の子が読む人に話しているみたいで、心の中でグレッグと会話しているような、楽しい気分になれます。そしてノートみたいな書き方で書いてあるので、とても読みやすかったです。さらにこの本は少し長いですが、まったくあきずに低学年でも読めるように、ふりがながふってあるので、小学生なら絶対に楽しめる本です。ぜひみなさんも読んでみてください。

夏休みの出来事

6年1組 ロス 実夏

私は今年の夏休みに、お茶を習いました。私はいとこと祖父母と私の家族と行きました。お茶でのあいさつのしかたやお茶のたてかたや、お茶がしの食べ方を習いました。お茶では、あいさつがとても大切だということも習いました。お茶がしは季節により、テーマが変わります。私は、宇宙のテーマで星が入っているようかんを食べました。私はお茶を習っている間、ほとんど正座をしていました。あまり正座をしたことがないので、とちゅうで足をくずして座りました。私は、お茶を習ってみてとても楽しかったです。もしまた習う機会があったら、また習いたいと思います。

宮沢賢治「よだかの星」を読んで

6年1組 赤木 七海

私が宮沢賢治の作品を読んで気に入った物語は、「よだかの星」です。なぜなら、よだかが最後に星になって、いつまでも燃えていたからです。この物語のあらすじは、よだかはみにくい鳥なので、みんなにいやがられていました。なのでよだかは、いろんな星に「やけど死んでもかまわないから、あなたのところへ連れて行ってください。」と頼みましたが、星たちの答えは「無理だ。」でした。そしてよだかは、どこまでもどこまでも空へ上りました。ですが、寒さや霜が剣のようによだかをさし、とうとうよだかは羽がしびれました。それからしばらくたって、よだかは星になっていました。私がこの物語を読んで印象に残ったことは、よだかが星になっていつまでも燃え続けていたことです。私は、最後によだかが星になってしまうのは悲しいですが、よだかは、星になれてうれしかったと思います。

◎10月5日

<投稿作品>

- | | | |
|--------|------------|---------------------------------|
| 小学1年1組 | 高田 穂夏 | 「わたしの オネイちゃん てんさいだあ！」 |
| 小学5年2組 | 入江 友 | 「運動会 一年待つの 長すぎる」 |
| 小学2年2組 | 椎名 駿介 | 「いそがしい 二時間かけて きてるから」 |
| 小学6年1組 | 岩谷 颯樹 | 「毎週の 日本語学校 まちきれん」 |
| 小学6年1組 | ロス 実夏 | 「うれしいな もりエモンの絵 ほめられた」 |
| 小学5年2組 | 読み人知らず | 「まいしゅうの 一番の楽しみ ほしゅうこう」 |
| 小学3年2組 | 岡 瑞帆 | 「たのしみだ じゅぎょうさんかん うれしいよ」 |
| 小学3年3組 | スミス シャーロット | 「いちごあじ アイスcream おいしいな」 |
| 小学4年2組 | 椎名 恵麻 | 「私はね 日本の友だち こいしいな」 |
| 小学6年1組 | 深川 緒莉 | 「6の1 まんが化決定 連さい中 ぜひ教室まで 遊びにきてね」 |
| 小学6年2組 | 板垣 幸太 | 「秋がきた こうようみれるなっ うつくしい」 |
| 小学3年2組 | 読み人知らず | 「五七五 毎週楽しみ パラダイス」 |



トゲ森の言葉の森・探検

えんまん ぐそく

円満具足

すべてが十分に満ち足りて、不足なく備わっていること。「円満」「具足」とも十分に備わっていること。

今日という日は、残された人生の

最初の一日である。

ジョン・デンバー

1943年～1997年 アメリカのシンガーソングライター

日々の生活で、実践したいことを挙げよう。そして一日の終わりに、それをわずかでも行うことができたかどうか、振り返ってみよう